

第37回

楽器を使った創作にチャレンジしよう ～音楽を形づくる要素に注目する～

学習のねらい

みなさんと楽器を使って音楽の「創作」を学んでいきます。「創作」というと、はじめからすべてオリジナルで作りに上げていくものと考えがちですが、今回は全部の曲を作るのではなく、自分で音を組み合わせるといった体験をする中で、創作の楽しさを味わっていきたいと思います。



講師
末石忠史

「音」を変化させて曲がどう変わるか？

まずは、みなさんもよく知っている「かえるの合唱」を使い、音楽を形づくっている要素を変化させることで、音楽的にどのような変化が生まれるのか体験していきます。

■表現方法の変化

①音色の変化

電子ピアノで音色を変えてみます。曲の雰囲気やイメージがどう変わるか、注意して聴いてください。電子ピアノによってはオーケストラや和楽器、民族音楽で使われている楽器、自然界の音をイメージした人工的な音など、いろいろな音色がありますので、機能を使って変化させてみましょう。

②速度の変化

ゆっくり歩くぐらいの速度のアンダンテ（Andante）から始まり、次に活発で速い速度のビバーチェ（Vivace）へと徐々に速度を上げて演奏していきます。聴いてみると、かえるがバタバタしている、忙しそうにしている、といった「動き」をイメージする人もいるかもしれません。

③強弱の変化

次は強弱です。曲全体や一部の強弱を変化させるだけでも、ずいぶん雰囲気が変わります。「かえるの合唱」というタイトルから離れて、何か新しいストーリーを想像する人もいるかもしれません。演奏をしながら、私は、ちょっと体が硬いカエルが体操をしている様子をイメージしてしまいました。

■音の変化 変奏曲・バリエーション**①長調と短調**

「かえるの合唱」はハ長調ですが、これを短調にして演奏してみましょう。長調と短調の違いは、音階を作る構成音の一部を変化させて作ります。

②リズムや拍子

次にリズムや拍子を変えます。ここでは、4分の4拍子の拍子でできている「かえるの合唱」を4分の3拍子に変えてみます。4分の4拍子の場合、1小節の中に四分音符が4つ入る拍子ですが、4分の3拍子では拍が1つ減って3つしか入りません。そこで、旋律もそれに合わせてリズムを変え、3拍に収めてゆくことになります。

③音を加える・音を減らす

最後に、元の旋律にない音を加えたり減らしたりして、旋律を変化させてみましょう。旋律の印象がどのように変わっていくのか、聴いてみましょう。

創作は「0」からはじめるもの、という考え方もありますが、自分からまず1音、あるいは速度や調性、リズムなど、何かひとつ、変化させてみることで、自分の創作する引き出しが増えて、より大きな音楽を作っていくきっかけになると思います。

イメージを音や音楽で伝える

「創作」の第一歩は、いろいろな音を使って遊んでみることです。今回は6人の生徒のみなさんに創作活動を体験してもらいます。前述したような、曲を変化させることに慣れてきたら、次に「楽しい感じにしよう」「元気な感じにしよう」「悲しい感じにしよう」など、どのような曲にしたいかというイメージを持って創作してもらいます。イメージがあることで、より具体的な音のアイデアが浮かんできます。ここでは、「歩く」、「走る」、「弱い風」、「強い風」を即興的に演奏してもらいます。

コード（和音）使って音楽を作る

次に、赤尾暁編曲の「翼をください」の楽譜にあるコードを使って6人のみなさんに旋律を作ってもらいます。使うのはリコーダーです。まずコードを構成している音から、一つずつ選んでいきます。選んだ音を楽器で演奏しながら確認していきましょう。次に、リズムも変えていきます。どんな音を使うのか、どんなリズムにするのか…を組み合わせただけでも、それぞれの人の作品となり、オリジナリティーがでできます。ここでは、それぞれ創作した作品を演奏してもらいます。

まとめ

番組では、和音の構成音を使った音楽作りを紹介しましたが、和音の構成音でない音である非和声音を効果的に使うことでより多彩な表現を作ることができます。また、器楽の作品でも、歌の作品と同様に息の流れ、つまりブレスの扱いがとても大切になります。息の流れがないと、音楽の中に息苦しさのようなものを感じてしまうからです。

音楽の可能性はとても幅広いので、自分の発想を狭めずに、ぜひ、音楽作りを楽しんでみてください。

♪ 今回取り上げる曲 ♪♪♪

- 「かえるの合唱」 ドイツ民謡 編曲：末石忠史
- 「翼をください」 作詞：山上路夫 作曲：村井邦彦 編曲：赤尾 暁